

1. 実況上の着目点

① 前線が南西諸島～日本の南～小笠原近海にのびている。前線に向かう下層暖湿気の影響で、南西諸島～日本の南で雷を検知、先島諸島付近で激しい雨を解析。

② オホーツク海の500hPa 5400m以下の寒冷渦を回る500hPa 5520m付近で-21℃以下の寒気を伴ったトラフに対応して、低気圧と気圧の谷が沿海州付近を東北東進。この前面に流れ込む下層暖湿気の影響で、北海道地方では、1時間に5mm前後の雨を解析、日本海で雷を検知。また、気圧の傾きが大きくなり、やや強い風が吹き、波が高くなっている所がある。

③ フィリピンの東を低圧部がゆっくり西北西進。低圧部の周辺では対流活動が活発になっている。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 7日は、1項②のトラフと対応する低気圧はオホーツク海に進み、気圧の谷が北日本を通過する。8日は、500hPa 5640m付近のトラフと対応する気圧の谷が北日本を通過。9日は、500hPa 5520m付近のトラフに対応した低気圧がサハリン付近に進む。低気圧や気圧の谷に向かう下層暖湿気と上空寒気の影響で、北日本では9日にかけて大気の状態が不安定となる所がある。落雷や突風、降ひょう、急な強い雨、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

② 7日は、1項①の前線は、日本の南をゆっくり北上、朝までに500hPa 5820m付近の正渦度移流に対応して華中に発生する前線と夜にかけて一体化し、華中～南西諸島～日本の東にのびる。8日は、前線は、華中～種子島・屋久島付近～日本の東に停滞。500hPa 5820m付近の正渦度極大域に対応して、前線上のキंकが、華中付近から九州の西に進む。9日は、前線は、華中～九州南部付近～日本の東に停滞。前線に向かう下層暖湿気の影響で、南西諸島では8日にかけて、西日本では8～9日は、伊豆諸島では7日と9日は、大気の状態が不安定となる所がある。また、西日本では8～9日は、伊豆諸島では9日は、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

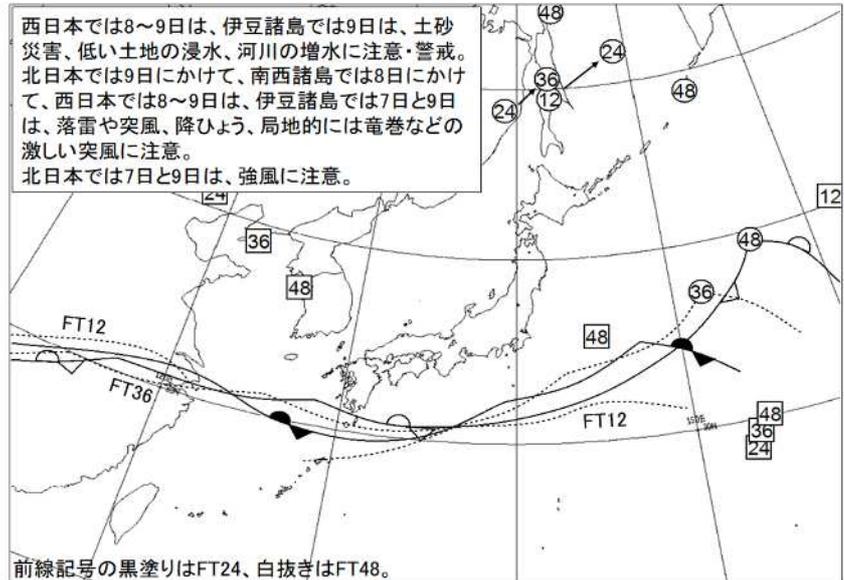
③ 2項①の低気圧や気圧の谷の周辺では、気圧の傾きが大きくなり、やや強い風が吹き、波が高くなる所がある。北日本では7日と9日は、強風に注意。

④ 9日にかけてフィリピンの東には低圧部が停滞。低圧部周辺の対流活動の実況や今後の予想に留意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考とするが、2項②の前線の位置や降水分布は不確実性があることに留意。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(06時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 波浪(明日まで)：高い所(3m以上)はない。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雨に関する全般気象情報」を17時頃発表予定。



主要じょう乱解説図